

年頭所感

岡田文秀

茲に昭和十二年の新春を迎ふるに當り、路政關係各位の御健康を祝すると共に所懐の一端を述べ年頭の辭と致し度いのである。

顧みれば、昨年は土木行政の方面に於ては九十年度の如き異常なる災害もなく比較的靜穩に過ぎたことは幸慶の至りと云はざるを得ないけれども、我國內外の狀勢は文字通り多事多難、眞に非常時局の様相を具現した年柄であつたと云へる。即ち内には二月二十六日、撃轂の下に發生した未曾有の不祥事件は云はずもがな、重要な各種の問題山積してその徹底的解決を要望して居つたばかりでなく、外には滿洲國の成立以來頗る複雑微妙を加へ來れる北滿の國際關係、日支交渉の依然たる難澁性、更にコミンテルンの赤化工作に對する日獨防共協定に伴ふ國際關係の複雑化等、數へ來れば國の内外を通じて政治經濟外交の諸方面に涉り劃期的なる事件にしてその解決を將來に俟つもの頗る多かつたのである。

現内閣は、昨年八月庶政一新の意圖を以て、國防の充實、國民生活の安定、産業の振興及び貿易の伸長

を始め所謂七大國策を定立したのであるが、我々の擔當する道路行政施設なるものがその中に漏れたことはお互に寔に遺憾とした所であつた。大小悉くの道路の新設乃至改良が所謂國策と稱し得べきや否やは別問題として、現時の我國産業交通の實情に照すときは其多くは確かに國策に屬すべきものであり、少くとも重要幹線道路の改良施設等は之等諸般の國策遂行の基礎條件であると云ふことは何人も否み得まいと思ふのである。

道路の人類生活に對する重要性は、凡そ社會のあるところ、如何に原始的なる聚落にも必ず相互交通の媒介手段としての道路を存せざるなき事實に依りても容易に窺知し得るのである。然るにその惠澤の餘りにも普遍的なるために、人往々にしてこれを認識せず、徒らに舊態の儘に放置して顧みざるの愚を繰返して居る實情は寔に遺憾に存するのである。路政擔當者は常に思を茲に致し、機會ある毎に道路の恩澤を認識せしめ道路改良事業に對する一般世人の啓蒙指導に努めなくてはならない。此の意味に於て、各府縣共近時非常に力を入れてゐる道路愛護事業の如き又昨秋道路改良會で發起した一號國道視察伊勢神宮參拜自動車旅行の如きは、寔に時宜に適した企であると思ふのである。

抑々明治初年の政府當局者が舊幕時代の交通制限政策を一擲して、克く地方官を督して土木施設に力を致さしめ、又民間企業を促進獎勵したのは我が開國進取の國策に順應したるものであつて寔に當を得たるものであつた。爾來路政に付ては格別の進歩改善を見なかつたが、劃時代的に政府が

道路改良に力を注ぐに至つたのは、實に大正八年道路法を制定し、續いて同九年道路公債法を制定して、同年度以降三十ヶ年に亘り國費二億八千餘萬圓を以て第一次道路改良計畫を樹立し、同時に道路改良費豫算を創設して以來のことである。

然るに、日進月歩の勢を以て國運進展し來つた我國は、歐洲大戰を楔機として更に一大躍進を遂げ、産業貿易の發達實に驚くべきものがあり、爲に交通運輸特に道路交通は革命的時代を現出したのである。かくして、大正八年僅か二千八百臺に過ぎなかつた自動車は、昭和七年には實に十萬臺を突破するに至り、多くの重要幹線道路に對して、幅員の擴大、線形の改善、路線の短縮、路面の改良等、徹底的なる改良工事の施行をなすに非ざれば到底時代の進運に順應するを得ざる狀況に立ち至つたのである。

そこで、政府は昭和八年更に土木會議に諮問して道路政策の根本的改訂をなし、所謂第二次道路改良計畫を樹立したけれども、現實に毎年度に實施せられた改良事業は必ずしも此等の一定計畫に準據したものではなく、政府財政の都合上著しく制約せられたものであつた。或は時局、匡救、或は失業救済等、社會政策的考慮に依り相當大規模なる事業の實施を見たこともあるが、之等は何れも他の國策乃至は社會的の必要に基き道路政策が其の手段として採用せられたに過ぎなかつたのである。従つて根本的に時代の要求を満足せしむる程度のものに非ざること、は次の數字でも一目瞭然とするのである。

抑々國道府縣道の延長は、國道二千二百餘里、府縣道二萬七千八百餘里であるが、第一次道路改良計

畫樹立以後、現在迄に支出せられた國費は、國道分一億七百萬圓、府縣道分四千五百萬圓であり、毎年度平均は一千萬圓に充たないのである。而して之に因つて改良せられた延長は、國道五百二十八里、特殊國道十八里を含む、府縣道六千二百里であるから、其の比率は國道二割四分、府縣道二割二分に過ぎない。しかも、現代道路の不可缺の要件とも云ふべき鋪裝道路に至つては、僅かに國道七十三里、府縣道百六十四里に過ぎないのであるから、重要幹線が理想的容裝を完備して、普く現代交通の需要を充すは前途尙ほ甚だ遼遠と云はざるを得ないのである。

從來、國道の改良事業は單年度豫算を以て施行し來つたのであるが、元來道路は一定區間繼續して事業を施行し之を完成せざる以上、其の效果の發揮を充分ならしむるを得ざるものであり、且つ工費の經濟化を圖る上に於ても一定繼續費を以てこれをなすを有效且適切とすべく、内務省に於ては多年此の方針に則りこれが實現に努力し來つたのであるが、未だ充分に此原則が豫算上に確現し來つてゐない事は甚だ遺憾とする處である。併し昭和十一年度より始めて事業の性質又は路線の重要性等に鑑み一定年度割の下に施行するものに付繼續費の設定を承認せられ、新京濱國道外六ヶ所を六ヶ年繼續事業として合理的且經濟的に施行するを得るに至り、更に十二年度に於ては京都奈良間外六ヶ所を總額大凡一千万圓を以て繼續施行することとなつたのは、確に道路行政上の一進展であり、寔に慶賀すべき事柄である。此の方針は將來漸次他の重要なる區間に推及したいと思つて居る。尙指定府縣道制度は大正十五年の創設に係るものであるが、其の後に於ける道路改良の進捗並に

交通情勢の變化著しきものがあるので、昨年八月全面的改廢を行ひ、且つ府縣道改良補助費も、原則として指定府縣道を對象としたのである。これ、道路改良事業はすべて土木本來の文化的經濟的的使命に立脚して綜合的有機的に統制施行せんとする意圖に外ならないのであるが、十二年以降に於ても、當然この方針は踏襲せらるべく従つて各府縣に於ける其他の道路改良も此の方針に順應して綜合的計畫的に實施し斯の事業に一段の光彩を添へられんことを切望してやまない。

最後に、特に各位の御留意を乞ひたきは、土木事業は概ね巨額の經費を以て相當長期に亘り大規模に施行せられるものであるから、これが施行の適否は直ちに國家公共團體の財政並に公共の利益に至大の關係を有するの一事である。若しその計畫にして徒に經濟的要求を超越して事業の分量のみを企圖して樹立せらるゝならば施設自身は假令雄大豪壯を誇り得るとしても結局仕事の爲の仕事を事たるの誇は免れ難く又之が多數關係者の間に統制なく熱意なければ事業の完璧は到底期し難いのである。故に計畫克く經濟的要求と合致するのみならず、關係者亦一致團結、眞に蘊蓄を傾け熱意以て之に當るならば豫算に制約せられつゝ、而も優に豫算を凌駕超越する立派なる仕事がなし得らるゝのであつて、結局仕事は人にして金にあらずと云ふことを路政關係者は常に銘記すべきである。斯く觀じ來れば、現下の難局に遭遇し、舉國發憤を要するの秋、路政關係者の國恩に報い、社會に寄與するの途は決して尠きを嘆じないのである。冀くば、各位克く自重加餐せられ、職務の十全を期して國家の進運に貢獻せられんことを。